

- VOL.30 P9-16, 2010.
- 2) 秋山政人：「Donor Actionと臓器移植法の改正の留意点」Organ Biology VOL.18 NO.1 P39-45, 2011.
- 3) 秋山政人：【腎移植】16. 移植コーディネーターの役割透析・腎移植の全て「腎と透析」第76巻増刊号 (株)東京医学社 2014.4.

### 3 レシピエント移植コーディネーターの立場から

田邊 真弓<sup>1</sup>・齋藤 和英<sup>2</sup>・小林 隆<sup>3</sup>・田崎 正行<sup>4</sup>

<sup>1</sup>新潟大学医歯学総合病院 看護部 移植医療支援センター

<sup>2</sup>新潟大学医歯学総合病院 移植医療支援センター副部長・泌尿器科

<sup>3</sup>新潟大学医歯学総合病院 小児外科

<sup>4</sup>新潟大学医歯学総合病院 泌尿器科

#### Recipient Coordinator for Transplantation

Mayumi TANABE<sup>1</sup>, Kazuhide SAITO<sup>2</sup>, Takashi KOBAYASHI<sup>3</sup> and Masayuki TASAKI<sup>4</sup>

<sup>1</sup>Support Center for Transplantation, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

<sup>2</sup>Division of Urology, Department of Regenerative and Transplant Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

<sup>3</sup>Division of Surgery, Department of Regenerative and Transplant Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

<sup>4</sup>Division of Urology, Department of Regenerative and Transplant Medicine, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Niigata University

キーワード：臓器移植, 移植医療, レシピエント移植コーディネーター, チーム医療

#### はじめに

移植コーディネーターは臓器移植および組織移植を適正かつ迅速に施行するために必須のスタッフである。

移植コーディネーターは、臓器提供者本人とその家族の意思を尊重して臓器の斡旋業務を行う「ドナーコーディネーター」(欧米ではOrgan Procurement Coordinator)と移植を受けた患者、移植を受けようとする患者を支援する「レシピエント移植コ

ーディネーター」(欧米ではClinical Coordinator)とに大別される。

また、「ドナーコーディネーター」は日本臓器移植ネットワーク(JOT)のコーディネーターと、都道府県コーディネーター、さらに病院内の体制整備や実際の臓器提供時に院内調整の役割を担う院内コーディネーターが存在する。

一方、「レシピエント移植コーディネーター」は各臓器移植施設において、専門的な移植医療の知識を有し、生体ドナーも含めた患者、その家族

Reprint requests to: Mayumi TANABE  
Transplantation Support Center,  
Niigata University Medical and Dental Hospital,  
1-754 Asahimachi-dori, Chuo-ku,  
Niigata 951-8520, Japan.

別刷請求先：〒951-8520 新潟市中央区旭町通1-754  
新潟大学医歯学総合病院 移植医療支援センター

田邊 真弓

の精神的・経済的サポート、教育指導を行うことで、円滑な臓器移植手術の実施と移植後の長期成績向上に貢献している。

### レシピエント移植コーディネーターの役割

2011年に、日本移植学会を中心とする移植関連学会、研究会で構成されたレシピエント移植コーディネーター認定合同委員会により、レシピエント移植コーディネーターの資格認定制度が充足し、2018年現在で183名の認定レシピエント移植コーディネーターが移植待機患者や移植後のレシピエントを支援している。

また、2012年4月より、移植後患者指導管理料(300点)が診療報酬として新設された。移植後患者指導管理料は、「移植医療に係る適切な研修を受けた専任の看護師が、関係診療科および関係職種と緊密に連携をとり、かつ適切な役割分担を考慮しつつ、医師の指示のもと臓器等移植後の患者に対して提供される医療について調整を行うこと」と規定され、日本看護協会や日本移植コーディネーター協議会(JATCO)の講習を受けたレシピエント移植コーディネーターを移植外来に設置することが必要となる。

レシピエント移植コーディネーターは、臓器移植を受ける患者およびその家族や生体ドナーを対象として、移植を受ける前から退院後も継続的に関わっている。移植前は、レシピエントやその家族は、移植手術そのものに対する不安、移植後の生活に対する不安、移植後の移植臓器の機能に対する不安など様々な不安を抱えている。そのためレシピエント移植コーディネーターはレシピエントの身体的評価だけでなく、移植についての情報提供を行い、家族も含め移植に対する十分な理解や協力体制ができているかを確認すること、そして移植に対する意思決定を支援していく役割がある。

また、移植医療はまさにチーム医療であり、移植医、看護師、薬剤師、栄養士など多職種との連携、他施設、日本臓器移植ネットワークとの連絡・調整を行っていくこと、移植後もレシピエントが

食事や内服、感染症予防など長期にわたって良好な自己管理ができるよう継続して関わっていくこと、臓器提供の尊さについて一般社会へ普及啓発していくことも大切な役割とされている。

### 本院における移植待機患者の現状

#### 1. 腎臓移植について

2017年12月末現在、日本全国で約12,400人の患者が献腎移植(亡くなった方の善意の腎提供による腎移植)を希望し、日本臓器移植ネットワークに登録しているのに対して、2017年の献腎移植件数は日本全体で198件であった。

また、献腎移植を受けられた方の平均待機期間(登録日から移植日までの期間)は5,340日(約14.6年)となっている。献腎移植の待機期間が長期であることから、長期透析患者や高齢者が増加しており、献腎移植によりやく選定されても種々の合併症のために移植手術が受けられない場合や周術期に重篤な合併症を引き起こすなど、様々な問題が生じている。

そのため、献腎移植実施施設は「移植希望患者に対して、年1回以上の適切な評価」を、待機患者は登録更新の条件として年1回の移植希望施設への受診が義務付けられている。

新潟県においても、2019年3月現在、199名の患者が献腎移植を希望され待機されている。本院においては、昨年(2018年)の献腎移植の新規登録患者数は16名、登録更新対象者数は177名、受診率は85.3%であった。未受診者の理由としては、心疾患やがん術後などから移植適応外となったことや、年齢(60~70歳代)などから移植を断念したことが考えられ、今後も移植待機患者がスムーズに献腎移植が受けられるよう、レシピエント移植コーディネーターが腎移植に関する情報提供や受診に向けた支援を継続的に行っていくことが重要となる。

#### 2. 膵臓移植について

わが国において、昨年(2018年)の脳死下臓器提供は66件で、うち膵腎同時移植は31件、膵

臓単独移植は3件であった。

日本における臓器移植認定施設は本院を含めて18施設であり、2019年3月現在の臓器移植希望患者数は日本全体で213名、本院においては、現在、4名の患者（膵腎同時移植3名、腎移植後膵臓移植1名）が待機されている。

膵臓移植の場合、献腎移植に比べて待機患者数が少ないことから平均待機期間は3～4年となっている。

### 3. 意思確認のための連携

全国で脳死ドナーが発生した場合、待機している患者がレシピエント候補として選定されると日本臓器移植ネットワークからドナー情報（提供施設、ドナーの年齢や性別、原疾患や病歴など）が入る。本院においても月に平均2～3件のドナー情報があるため、医師・レシピエント移植コーディネーターが核となってレシピエントの意思確認を含めた、施設としての移植の可否についての最終判断を、連絡から1時間以内に決定しなければならず、チーム連携が非常に重要となっている。

#### サンクスレター

サンクスレターとは、レシピエントもしくはその家族が書いた、ドナーとその家族に宛てた手紙を言う。

手紙の内容は、「私と私の家族にとって、大きな、本当にかげがえのない大きな贈り物となった」、「感謝の一言だけでは言い尽くせないが、自分が恩返しとしてできることはいただいた臓器を大切に少しでも長生きすることだと思い、自分を大切にする」などの感謝の意、また生活の様子などが主であり、レシピエントの氏名や住所、その他個人を特定できる情報は書いてはいけないことになっている。

また逆にドナー家族がレシピエントに手紙を書く場合もある。ドナー家族は「レシピエントの経過が順調でうれしい」、「本人の意志が活かせて良かった」、「どこかで生きていると思うとうれしい」などの内容のサンクスレターが寄せられている。

いずれの場合も、家族とレシピエントとが直接連絡を取り合うことはできないため、移植コーディネーターが仲介し、相互の思いを届けている。

サンクスレターはドナー家族にとってはもちろんのこと、臓器提供および移植医療に関係した人々にとっても励みになるものであり、レシピエント移植コーディネーターとして、移植を受けた患者の思い（声）を伝えていくことも重要な役割である。

#### おわりに

臓器移植は善意のもとで成り立つ医療であり、ドナーからの命の贈り物をレシピエントにしっかりと届け、レシピエントがドナーとその家族に深く感謝しながら身体を大切に過ごせるようサポートしてことがレシピエント移植コーディネーターの使命である。

レシピエント移植コーディネーターの業務を行うには、専門的な移植医療の知識の習得と患者・家族の精神的・経済的サポート、教育指導を行う能力が必要である。他の施設では1臓器に対して複数名のレシピエント移植コーディネーターが配置されていることが多いことから、今後はレシピエント移植コーディネーターの育成・教育体制の構築が課題となる。

#### 参考文献

- 1) 寺岡 慧, 高原史郎, 福嶋教偉, 横田裕行, 芦刈淳太郎, 小中節子: 臓器移植とそのコーディネーション—基礎から応用まで—, 115-121, 411-414, 2015.
- 2) 松田 暉, 福嶋教偉: レシピエント移植コーディネーターマニュアル, 463-476, 2005.
- 3) 高橋公太: 腎移植のすべて, 46-47, 2009.
- 4) 日本臨床腎移植学会・日本移植学会: 腎移植臨床登録集計報告(2018)—2017年実施症例の集計報告と追跡調査結果—, 移植, 53, 89-108, 2018.
- 5) 日本膵・膵島移植研究会膵臓移植班: 本邦膵臓移植症例登録報告(2018), 移植, 53, 139-147, 2018.